



詫中OBであることを誇りに思う

先日、学校評価委員会があり、学校評議員、体育後援会会長、PTA会長、学年会長、学校医など多くの方に参加いただきました。学期末に行っている保護者評価、教職員評価、生徒評価の結果などをもとに、学校の現状や取組について説明しました。1学期と2学期の評価結果を比較しても、全体的に厳しい評価であり、学校外の生徒たちの様子からも、詫間中学校の現状を心配される声が聞かれました。

- ◆ 学習規律の乱れは、生徒自身の問題でもあるが、保護者も真剣に考えていかなければならないと思う。また、勉強したい人のモチベーションが下がらないような方法を考えてほしい。
- ◆ 家庭教育、地域の教育力が低下している。家庭では、家族が同じ時間を過ごすことが少ないので、子どもとのコミュニケーションをしっかりとってほしい。
- ◆ PTA授業参観での私語など、保護者の態度で気になることがある。また、講演会への参加や学校通信のメッセージなど、聞いてほしい保護者に伝わらないのが残念だ。多感な子どもたちに寄り添うことの難しさを感じている。
- ◆ 授業参観を決められた時間だけにするのではなく、もっと自由に見られる時間を設定するとよい。
- ◆ 1年間を通してみると、部活動が終わった頃から3年生の様子が大きく変化してきたような感じがする。生徒一人一人に目を配っていただき、切りかわりがスムーズにできればいいと思う。

その一方で、「いじめや体罰の問題がある中で学校は大変だと思うが、先生方の一生懸命さが伝わってきた」などの声も多く聞かれました。また、テレビで放映された「マーガレット贈呈式」*2年団立志の集い」のビデオを紹介し、そこに映し出された生徒たちの笑顔を見ていただきました。見終わった後に拍手が湧き上がり、「詫中OBであることを誇りに思う」「涙が出そうになった」の感想をいただくなど、ビデオを見られたみなさんがとても感激されていました。そして、このようにいいイメージもたくさん発信してほしいという意見もいただき、未来の詫間中学校への期待が大きいこともわかりました。

★ 「香川県住みます芸人」として活躍している梶剛さん(吉本興業所属)を迎えて、『DREAMS COME TRUE ～笑う梶には夢来たる～』と題した講演会を行い、その様子が「RSKイブニング5時」(2/6)で放映された。番組の最後に生徒からの手紙や写真を受け取り、サプライズプレゼントに感激した梶さんが涙を流して喜ぶ姿は、見ている側も思わず涙ぐんでしまうほど、心温まるものだった。

侍ジャパン山本監督の手紙

「選手諸君」を「生徒諸君」に置き換えて伝えたい内容です。「チーム詫間」の一員としての自覚をもち、全校生徒が心を一につに頑張りましょう。私たちの後ろには応援してくださるたくさんの方々がいるのです。

選手諸君。皆の目の輝きを見て、そして、引き締まった身体を見て確信した。このメンバーで最後まで戦い抜く。全員が本当に、最高の表情で集まってくれた。

ここから我々は、結果を問われる日々を迎える。自分の特長を発揮することだけを考え、目の前のワンプレーに集中してほしい。結果が出ず、もどかしい思いをする選手が出てくるかもしれない。でも、個人の良し悪しだけで下を向く選手をこのメンバーに選んだつもりはない。みんなで支え、みんなで盛り上げていく。首脳陣、選手、スタッフが互いを信じ、戦い抜こうじゃないか。

このメンバーから数人が抜ける。それは戦略上の問題であって、個人の能力の優劣ではない。広島戦と西武戦の2試合があって、試合の結果だけで判断が下せるわけでもない。これだけはいえる。最終メンバーに選ばれなかった選手も侍ジャパンの一員にかわりはない。その選手たちの魂も背負って大会を戦う。全員の心は一つだ。

主将の慎之助には、大きな役割を背負ってもらった。そして、ベテランの稲葉、井端にもサポートをお願いした。少しでも迷いが生じたなら、彼らの背中を見てほしい。このチームに、孤独な者は誰もいない。私も最後まで選手を信じ、信念を持って采配をふるう。

監督に就任した10月から一気にこの集合日が来た。そして、本番はあつという間にやってくる。侍ジャパンの誇りを持って、共にアメリカに行こう。サンフランシスコで世界と戦おう。

我々の後ろには応援してくださるたくさんの方がいる。怖れることは何もない。

2013.2.14